

アンケート調査結果についての意見・要望・感想等

資料4

委員名	該当アンケート	質問区分	ページ	回答結果	意見・感想・要望等
森田会長	妊婦調査	2. (10) 不妊検査を受けた人	P16	23.9%が不妊検査及び不妊治療を受けた。	不妊治療が多いことに驚いた。不妊治療がその後の子どもの成長の認識へどのように影響するか気になる。
	就学前児童保護者調査	10. (4) 父親の育児休業取得状況	P92	27.5%が育児休業を取得した・休業中と回答。	その時期の子育て支援の場所と活動の整備が緊急に必要
	小中学生調査	2. (5) さびしいと思うことはあるか	P12	37.3%が「ある」と回答。女子が43.5%であった。	女子に高い割合で多い
		2. (6) さびしいと思うのはどんなときか	P12	40.3%が「仲間はずれにされたとき」と回答。	多い割合になっていることが課題で、体験していることがわかる
		2. (7) 遊びなどで利用したい場所	P13	54.3%の男子が「広い公園やしばふのある運動場」と回答。小学生では42.8%、中学生では45.6%の割合。	男子に高い割合で多い
			P13	38.7%の男子が「室内で運動ができるところ」と回答。中学生では42.9%の割合。	男子に高い割合で多い
		2. (8) 専用のスマートフォンはあるか	P14	69.2%が「ある」と回答。小学生50.1%、中学生90.4%の割合。	中学生では9割の子がスマートフォンを所有していて、小学4年生でも7割近くが所有している。
		2. (9) スマートフォンの使用時間/日	P14	11.7%が「5時間以上」と回答。小中学生ともに同割合。	10人に1人が5時間以上との回答はとても多い。
		2. (15) インターネットを利用しやすい気持ちになったり困るとき	P18	14.9%が「自分の情報や悪口等のメッセージ、書き込み」と回答。中学生は20.5%の割合。21.2%が「夜遅くまでやり起きれない・授業中眠い」と回答。中学生は28.7%の割合。	多い割合になっていて危険
		3. (1) 学校の授業内容がわからないことがあるか	P19	17.9%が「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と回答。	多い割合になっている
		3. (2) 勉強がわからない時、誰に教えてもらうか	P19	3.5%が「教えてもらえる人はいない」と回答。	
		4. (1) 今の生活に対して楽しいと感じるか	P21	8.6%が「楽しいとは思わない」「あまり楽しいとは思わない」と回答。	多い割合になっていることが課題
		4. (3) 今悩んでいること	P23	12.0%の女子が「友達がいらない・友達とうまういかない」と回答。	子ども自身の相談場所が必要。特に女子に高い割合。
		4(4) 悩みを相談する人	P24	16.2%が「いない」と回答。「答えたくない」の回答が24.1%である。	子ども相談室の必要性の検討。
		4. (22) まわりの人から認められていると思うか	P22	20.1%が「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答。	多い割合になっている
		意見の反映			アンケート結果の公表を行う。 ⇒子どもへの返信 ⇒何をどのように政策、施策化するか、どう取り組むか
汐見委員	全体				今回の調査は質問紙だけでなく、オンライン調査を同時に行ったことで全体的に回答率が高く、調査方法として2つの選択肢があることがよかった。
	就学前児童保護者調査	2. (5) 子育てに関する相談先	P12	「親族」が78.7%、次いで「友人や知人」が73.1%となっている。30%弱が「保育士」と回答。	保育園を利用している割合が62%以上であるが、実際に相談をする人としては、祖父母、友人、知人などが多く、園がもう少し身近な存在になるとよいと思った。
		5. (1) ネウボラ拠点（子育て世代包括支援センター）の利用状況	P48	74.2%が「利用していない」、「利用している」は24.9%の回答。	保育園などを定期的な利用をしていない在宅の保護者が37%もいるが、ネウボラ拠点の利用状況では、74%以上が利用をしていないという結果を見ると利用者ニーズの見直しの必要を感じた。利用していない理由を把握し、利用しやすい場と機会の提供を考えていくが必要だと思う。
		6. (1) 土曜日と日曜日・祝日に、「定期的な」教育・保育の事業の利用希望はあるか	P57	土曜日「ほぼ毎週利用したい」7.1%、「月に1～2回は利用したい」29.9%の回答。日曜日・祝日「ほぼ毎週利用したい」2.3%、「月に1～2回は利用したい」20.2%の回答。	土日・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望では、月に1～2回利用したいという人が20～30%いることを見ると、特に休日・祝日に保護者が仕事などの場合には教育・保育の要望に応えるか、またはそのような家庭が利用できるファミリー・サポート事業の充実を図ることも考えてはどうか。
					ファミリーサポート事業の提供会員の拡大が必須だと思う。
		6. (8) 幼稚園を利用している方で、長期休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望するか	P61	48.3%が「週に数日利用したい」、21.2%が「ほぼ毎日利用したい」と回答。	幼稚園の長期休暇中の利用意向が高いことは、保護者の仕事の有無、育児疲労や育児ストレスとの関連を考えることが必要ではないか。
		8. (6) 泊りがけで預けることができる事業の利用意向	P73	20.6%が「利用したい」と回答。そのうち、利用目的が「保護者は家族の育児疲れ・不安」が68.6%、「保護者や家族の病氣」が66.9%、「冠婚葬祭」が47.4%。	泊りがけで預ける事業の利用意向では20%以上の希望があり、ひとり親家庭の場合、仕事における社会的な責任を考えるとこのサービスの充実を 今後は考える必要があると思う。トワイライトサービスやショートステイサービスの周知も必要ではないか。
	小中学生調査	意見の反映			小中学生が自分の意見を言える場をつくったことは大変すばらしいと思う。意見が市の政策に反映されていることや今後の方向性に生かせることなどを小中学生にきちんと還元して、政治が身近であることを知ってもらい、市の行政に一市民として関心を持ってもらえる機会になるとよいと思った。

委員名	該当アンケート	質問区分	ページ	回答結果	意見・感想・要望等
伊東委員	妊婦対象調査	2. (6) 妊娠や出産で困ったことはあるか	P13	「健診・出産費用の負担が大きい」と回答した割合が42.2%。次いで「妊婦同士の交流の場が身近にない」が18.9%となっている。	妊娠や出産で困ったとの回答に、費用の負担(健診)が一番で、次に妊婦同士の交流の場がないとあった。こちらでは、ブレババママ教室を実施しているが、カップル単位への働きかけの場面が多いので、交流という視点を入れて開催・運営に生かせると感じた。
		2. (15) 妊娠中に配偶者にどんなことをしてほしいですか	P20	「重いものを持つ」82.2%、「家事をする」75.0%、「話を聞く」70.0%、「上の子の面倒を見る」42.8%、「ブレバママ教室への参加など子育てに向けた準備」35.6%、「ストレッチ・マッサージをする」30.6%	妊娠中に配偶者にしてほしいこと、1. 買い物を持つ、2. 家事をする、3. 話を聞くとあるので、こういった結果もブレババママ教室でフィードバックしたり、サポート先の紹介につなげられたりすると感じた。
		全体			ケアセンターへの具体的要望もあるので、スタッフ間で共有し、応えていきたいと思う。
高委員	小中学生調査	全体			小中学校調査については、小学校や中学校の実態を明確にするため、結果については小学校(小4)、中学校(中1)ごとに別で集計したほうがよかったように思います。
		2. (8) 専用のスマートフォンはあるか	P14	69.2%が「ある」と回答。小学生50.1%、中学生90.4%の割合。	専用のスマートフォンを所持している児童及び生徒については、年々増加していると思います。最近起きている犯罪がSNS等に起因しているケースも散見されるため、使い方やマナー等については、改めて指導を徹底していかなければならないと思いました。
		2. (5) さびしいと思うことはあるか	P12	37.3%が「ある」と回答。女子が43.5%であった。どんなときかの回答に、40.3%が「仲間はずれにされたとき」と回答。	小中学校調査の「日ごろの生活について」で、「さびしいと思うことはあるか」との問いに「ある」が37.3%という高い数値が出ていることが気になった。しかも、そう思うときの一番が「仲間はずれにされたとき」とのことで、深刻ないじめに発展しないよう早期発見・早期対応を徹底していきたいと思います。